シリーズ 探訪 わが町文化財 『あらぎ島編』 その27

笠松家住宅

笠松家住宅は、小峠地区のほぼ中央にあり、地区を代表する伝統的な民家です。江戸時代、この地域の初代大庄屋であり、蘭島（あらぎ島）をはじめとした数多くの新田開発や保田紙生産の基礎を築いた笠松左太夫の分家筋にあたる家柄と伝えられています。

敷地内には主屋、土蔵、長屋、貯蔵小屋の4棟が建っており、建物に囲まれたニワは農作業の他に、紙漉き作業の紙干し場としても広く使用され、かつての生業に密着した作業空間でした。

主屋は規模の大きな建物で、屋根はこの地域の風土に適合した傾斜度の高い茅葺きであり、上部にトタンが被せられています。主屋の東側には、谷水を利用した水溜めが設けられており、生活用水の他に紙漉きにも利用され、主屋に作り付けられた水槽にも水が引き込まれていました。

長屋はかつての牛小屋であり、倉庫や貯蔵庫としても使用されていました。トタン屋根の下には、現在ではほとんど見られなくなった杉皮葺きの状態が今も残っています。ここで飼われていた牛は、田起こし時にはあらぎ島へ連れ出され、今もあらぎ島に残る牛小屋で飼育されていました。

主屋の隣に建つ貯蔵小屋は、棕櫚の加工場として改修され、タワシ等の原料として旧野上町の加工業者へ販売されていました。

笠松家住宅は、民家の建物配置や形態を良く残しており、かつての暮らしを今に伝える貴重な資料です。また、笠松左太夫の顕彰碑のすぐ近くに位置するなど、今後の景観保存や活用を図っていく上でも重要な物件です。有田川町では、この住宅の保存活用について所有者のご理解をいただき、今後の修理や具体的な活用の計画について検討していくことにしています。

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野2018-4
●有田川町役場総務課 TEL 0737－52－2111

VEGETABLE OIL INK